TC療法を受けられる患者さんへ

氏名:　　様　担当医師:　　受け持ち看護師:

月日	／　～　／	／	／　～　／	／　～　／
経過	入院～投与前日	点滴当日	投与後2～5日目	投与後5日目～退院日
達成目標	◇治療の内容、スケジュールが理解できる ◇副作用について理解ができる ◇体調不良について報告ができる	◇アレルギー出現時には速やかに知らせることができる ◇副作用症状を伝えることができる ◇転倒予防行動をとることができる。	◇排便がある（少なくとも1日おき） ◇副作用のコントロールができる。	◇体の状態について報告することができる ◇副作用症状を知らせることができる ◇日常生活の注意事項について理解できる
検査 治療	身長・体重測定、血液検査、尿検査、 必要に応じて以下の検査を行うこともあります。 内診、胸部レントゲン、心電図など 〇治療が初めての時は、当日の流れについて前日または当日に、別途薬剤師より説明あります。	・治療の前後に検温を行います。 ・看護師が点滴の針を留置します。 ・点滴の準備ができたら薬剤の投与を始めます。 （点滴の途中で吐き気止めの薬を内服します） ・点滴が終わったら針を抜きます。	・検温を行います。	・検温を行います。
安静度	制限ありません。	抗がん剤の点滴中はなるべく安静にしておきましょう。		制限ありません。
食事	普通食（主食や飲み物など、食事変更できますので、看護師にお知らせください。）			
清潔	シャワー浴ができます。	点滴治療後はシャワー浴はできません。 必要時、体ふき用のタオルをお渡しします。	シャワー浴ができます。必要時、体拭き用のタオルをお渡しします。	シャワー浴ができます。
確認事項 注意点 副作用	・パンフレットを使用し、化学療法のオリエンテーションします。 ・薬剤師から治療薬についての説明があります。 ・初回治療の際、同意書を確認します。 ・持参薬の確認をします。	★アレルギー症状 薬によるアレルギー症状が起こることがあります。息苦しさや蕁麻疹、頭痛、悪寒、めまいなどの症状があればお知らせください。 ★血管外漏出 まれに薬が血管の外に漏れることがあります。点滴刺入部の痛み、赤み、腫れなどがありましたら看護師にお知らせください。 ★転倒 治療当日は、眠気を誘発する薬を投与するため充分注意してください。	★筋肉痛、関節痛 抗がん剤投与後3～5日目に多く出現します。痛み止めを使用できるので看護師に知らせてください。歩行時は注意してください。 ★倦怠感 抗がん剤投与後～数日経過した頃に体のだるさが多く出現します。無理をせず、ベッドでゆっくりお過ごしください。 ★嘔気 抗がん剤治療2.3日目は吐き気止めの薬を内服します。4日目以降吐き気が出現した場合は、別の吐き気止めをお渡しできるので看護師に知らせてください。 ★末梢神経障害 投与後数日経過した後より手足のしびれが出現することがあります。治療回数が増えるほどしびれの強さが強くなることがあるので、辛いときは医療者へ知らせてください。足にしびれがある方は、つまずいて転びやすくなっているので、手すりを持って注意して歩行するようにしましょう。	★骨髄抑制 抗がん剤投与後1週間～2週間経過した頃に、白血球が低下し、感染症にかかりやすくなります。手洗い、うがいを行い、外出する際はマスクを付けるようにしましょう。38度以上の発熱あるときは病院に連絡してください。 ・退院前に看護師より退院後の生活指導があります。

九州がんセンター　2024年　10月作成